September 2020

千里地理通信

関西大学地理学研究会会報　第 83 号

Newsletter of Geographical Institution, Kansai University

Contents

Page 1 ･･････････
新任挨拶
黒木貴一

Page 2 ～ 3 ･･････
研究ノート
日本近代における企業城下町の形成とその系譜
海　思琪

Page 4 ･･････････
日帰りバス巡検報告
テーマ　桜井・宇陀・曽爾・大和高原の自然と人文
土屋　純・黒木貴一
同窓会事務局からのご報告とご意見募集

Page 5 ･･････････
今後の研究会行事

Page 6 ･･････････
卒業論文及び修士博士論文一覧
『千里千里成長記3』の一部原稿落丁について

Page 7 ･･････････
教室だより
千里地理および同窓会令和元年度会計報告
同窓会事務局ニュース

Page 8 ･･････････
随想
遠隔授業試行錯誤
田中清隆

Page 4 ～ 7 ･･････
新専修生からのひと言

Page 7 ･･････････
2020 年度（秋）卒業生からのひと言

新任挨拶

黒木　貴一

4 月より関西大学地理学・地域環境学専修に教授として着任しました。専門は自然地理学です。現在の国情と大学事情を思えば，私のような者をこの期に，地理専門コースがある歴史ある大学に採用していただいたこと，心より感謝いたしております。学生時代は斜面地形の特に火山山麓扇状地の地形発達をテーマに研究を進め，C14 年代測定や火山ガラスの主成分組成分析に携わりました。後期博士課程は研究世界の厳しさに耐えられないと痛切に感じ，前期で修了しました。

修了後は，大学で学んだ地理技術を生かせることにあこがれ旧建設省の国土地理院に就職しました。ただそこは行政職の職場でした。2 年程度で訪れる転勤と，事務的な業務発注で時間は費やされていきました。扱った業務は基準点設置，地図作成，地盤沈下対策，地下水観測，地球温暖化のインパクト評価，省資源・省エネルギーの評価，生物多様性での動物保護区域設定，多次元 GIS の手法検討，活断層認定方法の検討，ダム地質の評価，水害調査と多岐に渡ります。単独ならば業務埋没で無難に過ごすことを目指したでしょうがチーム業務であり，結果職場仲間と上司の支援に恵まれて，そうはなりませんでした。実際，17 時以降と土日の業務時間外に，共同での野外調査を行ったり，行政事務でもできる研究方法を伝授いただいたりしたことが追い風となり，「地球温暖化のインパクト評価」と「省資源・省エネルギーの評価」の業務成果を使って論文を何とかまとめ学位を頂戴することができました。意外にもその内容は自然地理ではありませんでした。

この間，九州勤務への思いは捨てがたく，毎年異動願を出し続けましたがかないませんでした。九州へのあこがれは 10 年断ちがたく，とうとう片道出向の形でとにかく九州へと，福岡教育大学社会科に転職いたしました。そこでは学生は教員になることを目標に皆勉強するという，行政職とも総合大学とも異なる世界が広がっていました。はじめは教科内容の教育しか見えませんでした。しかし保護者と子供・生徒，教育委員会と職員室，教員と子供・生徒への対応のバランス感覚を磨くカリキュラムに沿った卒論指導を含む授業がある意味求められていると理解できるまで，随分かかりました。多くの教員仲間と頑張る学生達に恵まれて充実の時間を過ごせましたが，執務室（関大の個研）のみで実験できる環境がなく，高価機材や装置を取得しても置く場所がありません。結果，現場第一主義を貫く教育と研究の模索で 20 年を過ごしました。この間，砂丘，火山，湿地，斜面，人工地形等の地形と土地利用や土地被覆を GIS で重ねることで，地理的特性を考察する卒論指導を行いつつ，その過程，その中，その後から研究を紡いでまいりました。

この間，同僚先生が主催する七夕祭りでは，学生の「教員採用試験合格」短冊の中，「実験室を賜りますように」短冊を毎年のように紛れ込ませていました。そして実験室にあこがれる 20 年が経過した今日，ご縁を得られて夢がかないました。

新型コロナ禍にあって元職場の送別会も本職場での歓迎会も失われ，加えて学生との対面でのやり取りはできず，当初より信じがたい大変な時を過ごしております。何とか先生方と事務の皆様に支えられながら，よたよた動いている心境ですが，どうぞ，しばらく温かい目で見守っていただければと思います。残された猶予は 10 年と少ししかありませんが，実験室を使ってどこまで地理を広げられるか，30 年前を思い出しつつ誠心誠意取り組んでいきたいと思います。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

（くろき　たかひと：本学教授）

研究ノート

日本近代における企業城下町の形成とその系譜

海　思琪

1. はじめに

企業城下町とは，特定の一社または少数の企業がその町で事業を興し，企業の発展とともに事業所，工場，関連会社や下請け会社などが次々に設立され，その企業群によって住民が主たる労働機会を与えられることで，その企業の発展が市の発展に直結する状態となった自治体である。

外枦保（2018）は，企業城下町を「特定の大企業（中核企業）およびその系列企業が立地し，住民が主たる雇用機会を与えられるなど，経済的，社会的，政治的に，圧倒的な影響力を及ぼしている地域」と規定した。

そこで，本稿では，日本における近代工業化の発展と企業城下町の形成との関係，特に石油化学工業の関係で形成された企業城下町が形成される時期を各企業の沿革やホームページなどを資料として区分し，その特徴について検討することにする。

2. 日本の企業城下町の形成時期

日本の近代工業化の発展と，日本各地の企業城下町の形成との関係について，以下のようにまとめてみた。

(1) 1910 年代以前

表 1　主な日本の企業城下町の 1 － 1910 年以前

年代と近代工業の出来事	主たる産業	工場の建設年	都市名	企業名
1910 年以前 殖産興業政策，官営工場や鉱山の始め 炭田の民営化	鉄鋼	1880 年	釜石市	日本製鉄 （旧・釜石製鉄所）
	化学	1883 年	山陽小野田市	太平洋セメント （旧・小野田セメント）
	化学	1889 年	大牟田市	三井化学
	繊維	1896 年	綾部市	グンゼ
	化学	1897 年	宇部市	宇部興産 （旧・宇部炭鉱）
	鉄鋼	1901 年	北九州市	日本製鉄 （旧・八幡製鉄所）
	化学	1907 年	室蘭市	日本製鉄 （旧・室蘭製鉄所）
	化学	1908 年	水俣市	JNC（旧・チッソ）

（各企業 HP より作成）

明治新政府の殖産興業政策により，官営鉄道や汽船事業が発足し，日本各地に官営工場や鉱山などの事業が始まった。1880 年，軍関係を除く官営事業は，三井，三菱など民間に払い下げられた。これらは財閥の形成を促すとともに，もともと資源基盤のある地方に企業の主力工場となる企業城下町を形成していった。その嚆矢は 1880 年に開業された釜石製鉄所である（表 1）。その他，炭鉱の管理も民間の手に移り，製鉄および石炭産業が興隆していく。石狩炭田，釧路炭田，常磐炭田，三池炭田，宇部炭田などの大規模な炭田が開発された。また，官営工場から民間に払い下げられた富岡製糸場がある製糸及び絹織物工場が日本各地に立地し，農村地域や地方都市の工業化に寄与した。

その後，日本の製造業の中心が軽工業から重化学工業へと転換していく。その典型となるのは，1901 年に設立された官営八幡製鉄所である。また，90 年代の化学工業は水力電気事業の確立によって，北陸の電源地帯に化学肥料・化学繊維を製造する工場が立地し，多くの企業城下町が誕生した。その例が水俣市に設立され公害問題で有名になったチッソである（表 1）。

(2) 1910 年代～ 1920 年代

表 2　主な日本の企業城下町の 2 － 1910 年代～ 1920 年代

年代と近代工業の出来事	主たる産業	工場の建設年	都市名	企業名
1910 年代～1920 年代 繊維・化学工場の展開 在来産業の近代化	製紙	1910 年	苫小牧市	王子製紙 苫小牧工場
	電気機器	1910 年	日立市	日立製作所 （旧・日立鉱山）
	化学	1913 年	新居浜市	住友化学
	造船	1917 年	玉野市	三井 E&S ホールディングス （旧・三井造船）
	食品	1917 年	野田市	キッコーマン （旧・野田醤油）
	電気機器	1917 年	小松市	小松製作所
	輸送用機器	1920 年	府中市	マツダ

（各企業 HP より作成）

第一次世界大戦を経て，日本の重化学工業化は加速され，既存の主力工場に対する設備投資が行われるとともに，大規模な用地を求めて沿岸の埋立地，干拓地で工場立地が進んだ。造船業では，1917 年に玉野市に設立された三井造船（現・三井 E&S ホールディングス）のように，天然の良港が選択され，大規模な工場が建設された。また，この時期には都市人口の増大に伴って在来産業の近代化も進み，同じ時期に千葉県の野田市に野田醤油（現・キッコーマン）が設立されている（表 2）。

(3) 1920 年代～ 1940 年代

表 3　主な日本の企業城下町の 3 － 1920 年代～ 1940 年代

年代と近代工業の出来事	主たる産業	工場の建設年	都市名	企業名
1920 年代～1940 年代 重化学工業の発展 自動車工場の創業	化学	1922 年	延岡市	旭化成
	繊維	1927 年	岩国市	帝人

1920年代～1940年代 重化学工業の発展 自動車工場の創業	電気機器	1933年	門真市	パナソニック（旧・松下電器産業）
	化学	1934年	南足柄市	富士フイルム
	鉄鋼	1935年	君津市	日本製鉄（旧・君津製鉄所）
	輸送用機器	1936年	日野市	日野自動車
	輸送用機器	1937年	豊田市	トヨタ自動車 i)
	輸送用機器	1939年	池田市	ダイハツ工業
	電気機器	1940年	にかほ市	TDK

（各企業HPより作成）

さらに1920年代になると，繊維機械や鉱山機械の製作・補修などを起源とする電気機器や自動車メーカーの企業城下町も徐々に形成された。その中で最も著名なのはトヨタ自動車が本社を置く豊田市 ii) である。その周辺の都市（刈谷，安城など）には広範囲な下請けメーカーが立地している。1940年代までに，資本の独占化とも重なり合って重化学工業化が本格化することになり，マルチプラント化が進むことになる。重化学工業の発展は，都市化を急激に促進させることにもなった。電気機器メーカーがそれを契機に多く設立され，加工組立型の企業城下町が日本各地に形成された（表3）。

(4) 1950年代～1960年代

表4　主な日本の企業城下町の4－1950年代～1960年代

年代と近代工業の出来事	主たる産業	工場の建設年	都市名	企業名
1950年代～1960年代 新産業都市の形成 コンビナート等への鉄鋼・化学工場進出	化学	1955年	岩国市 和木町 大竹市	三井化学
	化学	1957年	周南市	出光興産
	輸送用機器	1958年	太田市	スバル自動車
	化学	1959年	四日市市	三菱油化
	輸送用機器	1960年	鈴鹿市	ホンダ
	化学	1964年	倉敷市	三菱化成
	鉄鋼	1968年	鹿嶋市	日本製鉄（旧・住友金属工業）

（各企業HPより作成）

第二次世界大戦後，軍需工場などの旧軍施設が払い下げられた。それが契機になって，石油化学コンビナートの企業城下町が四日市，岩国，徳山など日本各地に形成された（表4）。当時，中東において採掘コストの安い大油田が次々と発見され，このような環境を背景に石油産業は，それまでの生産地精製方式に代わって消費地精製方式が採用するようになり（渡辺1972），現地の雇用も拡大され，装置産業やエネルギー産業などの関連産業を育成し，発展させることにつながると考えられた。日本の化学産業はカーバイド・アセチレンを出発物質とする石炭化学からエチレンを出発物質とする石油化学へと移行し，石油への原料転換過程にあった。この流れを受けて，従来の石炭産地から石油化学コンビナートへの移行が進められていった。また，1960年代の高度経済成長期には，全国総合開発計画の拠点開発方式により，新産業都市や工業整備特別地域が指定された。全国各地でコンビナート地域に鉄鋼業や化学工業の大規模な新鋭工場が相次いで建設され，新たな企業城下町が形成された事例もあった（表4）。

(5) 1970年代～1990年代

表5　主な日本の企業城下町の5－1970年代～1990年代

年代と近代工業の出来事	主たる産業	工場の建設年	都市名	企業名
1970年代～1990年代 オイルショック 自動車・電機工場の地方進出	電気機器	1968年	矢板市	シャープ
	輸送用機器	1972年	磐田市	ヤマハ発動機
	輸送用機器	1979年	田原市	トヨタ自動車（田原工場）
	電気機器	1981年	阿見市	キャノン
	輸送用機器	1992年	宮田市	トヨタ自動車（九州工場）

（各企業HPより作成）

1970年代以降，オイルショックを契機に構造不況になり，化学工業，鉄鋼業，造船業などの大型産業の衰退が著しい。基礎素材型産業の企業城下町も深刻な事態に陥っている。当時，企業城下町の多くが「特定不況地域」に指定され，釜石市のように，製鉄所の設備削減と経営合理化が発生し，鉄鋼業は縮小再編成された。また，構造不況に陥った石油化学工業では，大規模なエチレン製造の休止が相次いだ。一方で，電気機器や自動車メーカーが東北や九州地方圏に進出し，加工組立型産業の新たな企業城下町が形成された（表5）。

3. 日本の企業城下町の現状

1990年代以降，日本の製造業大企業は，グローバル化が進み，海外拠点を積極的に展開していった。一方，事業の再編成に伴って，製造拠点の再編も行われた。そのため，該当企業の従業員だけでなく，下請企業や地方自治体にまで大きな影響を及ぼしている。特に近年，安定と脆さの両方を合わせもった企業城下町は，国内産業の空洞化とともに，事業所数や従業員数の減少など地域経済衰退が著しいことは否定できない。

注

i）1918年に豊田紡織株式会社として建設されたが，1937年に現在の愛知県豊田市に工場を設置し，トヨタ自動車工業が設立された。

ii）市制を敷いた当初は，「挙母市」という名称であったが，自動車産業が本格的に始めた1959年に「豊田市」に改名された。

参考文献

外枦保大介（2018）『進化する企業城下町』古今書院
川崎　茂（1973）『日本の鉱山集落』大明堂
松石泰彦（2010）『企業城下町の形成と日本的経営』同成社
丹辺宣彦，岡村徹也，山口博史編（2014）『豊田とトヨタ：産業グローバル化先進地域の現在』東信堂
渡辺徳二（1972）『石油化学工業　第二版』岩波書店

（かい　しき：本学大学院博士課程前期課程）

新専修生からのひと言

浅野祐斗
こんにちは。趣味は野球と旅行です。最近は中学時代の友達と週1ペースで野球をしています。身体を動かすのは最高です！また，コロナが落ち着いたら津々浦々旅行にも行きたいです。よろしくお願いします。

新井ひな
私は国内外問わず旅行することとスポーツが大好きです。これから学んでいく中でフィールドワークが楽しみです。よろしくお願いします！

石山　翼
地理学専修２年生の石山です。旅行大好き，地図は友達です！地理学が自分の人生を豊かにしてくれると信じて頑張ります！

宇都宮陸
こんにちは。私はバイクで出かけるのが好きです。バイクはそれぞれの土地を肌で感じるので土地の違いに興味が湧き，地理学専修を選びました。よろしくお願いします。

岡田ゆり
初めまして。大阪府八尾市に住んでいます。旅行をするのが好きなので，地域の特性などを学んでいきたいと思っています。また，実際に現地に行って調査するフィールドワークも楽しみです。よろしくお願いします。

四木愛実
宝塚市在住です。地図を眺めること，地域の文化の差に興味がありこの専修を選びました。高校で地理に触れていないため初心者ですがよろしくお願いします。

渋川裕斗
渋川裕斗です。自分は自然地理学に興味があり，フィールドワークによる授業もとても楽しみです。よろしくお願いいたします。

嶋田航大
はじめまして，嶋田です。地方へ一人出かけて散策するのが好きです。写真機や交通機関，大衆食堂巡りなどの趣味もあるので，何かしら仲間が見つかれば良いなと思っています。これからよろしくお願いします。

高田凜太郎
初めまして！兵庫県

■ □ 日帰りバス巡検報告 □ ■

テーマ　桜井・宇陀・曽爾・大和高原の自然と人文

土屋　　純・黒木　貴一

例年は1泊バス巡検報告となりますが，新型コロナ対応のため短縮で日帰りとし，実施も8月上旬にずれ込んだため，本号では通常の参加者による報告ができません。このため巡検計画を紹介します。

日　　時　2020年8月9日（日）
授 業 名　「地理学・地域環境学実習」（学部），「地域調査研究A」（大学院博士課程前期課程）の一部として実施
引率教員　土屋純，黒木貴一（以上，実習担当者），野間晴雄，松井幸一
参加学生　地理学・地域環境学実習履修の3回生，地域調査研究A履修の大学院生M1
集　　合　〔時刻〕出発8時30分　〔場所〕近鉄難波駅南側南都銀行付近　解散19時30分

コース　　*は下車見学地点

難波駅～阪神高速美原JC～阪和道～南阪奈道路～藤原宮跡（橿原市立資料館）*～阿倍木材工業団地～メスリ山古墳*～国道166号～道の駅「宇陀路大宇陀」*～森野旧薬園*～松山重伝建地区各自散散策*～「宇陀路大宇陀」での昼食（13時～13時40分）～国道166号～県道218号～国道369号～山粕～曽爾高原ファームガーデン～お亀池散策*～香落渓（道路上でワンストップ・柱状節理見学）～青蓮寺ダム～つつじが丘住宅～桔梗が丘住宅地～室生口大野～県道28号～国道369号～白石～道の駅針テラス（広域茶流通センター）*～名阪国道（針院IC）～天理インター（一次解散・奈良方面）～天理インター～西名阪道路～近畿自動車道～JR・地下鉄難波駅周辺（19時30分頃）

――― 同窓会事務局からのご報告とご意見募集 ―――

・昨年より地理学研究会は千里地理学会を呼称しております。千里地理学会は独立学会として大学から補助金を受けており，学会としての独立を求められています。このため千里地理学会を独立団体とすると，教室関連の団体として地理学研究会，地理学同窓会，千里地理学会の3団体が並立することになります。教室および事務局の規模に対して団体数が多すぎるため，2月3日の幹事会で千里地理学会の扱いを検討いたしました。その結果，千里地理学会の補助金は今後の学会運営には欠かせないこと，事務局の人手不足は深刻なことなどを考慮して，以下のように提案がありました。

1. 研究会と同窓会を合併し地理学研究会とし，会則で同窓会業務を担うことを明記する。
2. 千里地理学会は独立学会として存続させつつ，研究会の行事を千里地理学会との共催扱いとする。
3. 研究会，同窓会の合併について前号および本号で意見を募り，2020年12月の総会で決議をおこなう。本件について，卒業生の皆様の忌憚のないご意見を事務局へお寄せくださるようお願い申し上げます。

今後の研究会行事

1．秋の日帰り巡検のご案内

関西大学地理学研究会の恒例行事となっている日帰り巡検を以下の要領で実施します。今回の巡検は，南河内の古文化地域を徒歩と近鉄電車を利用してまわります。午前中は富田林寺内町を，午後は戦前には日本一のぶどう産地であった羽曳野市の丘陵地域でワイン工場を見学し，新たに世界遺産に登録された藤井寺・羽曳野市域の古市古墳群を歩きながら開発と保全を考えます。多くの卒業生，現役学生，大学院生の参加をお持ちしています。

ただ新型コロナウィルス感染拡大の状況によっては，今回はコース変更・中止もありえます。その際は専修の web サイトで 9 月末までにお知らせし，参加を申し込まれた同窓会員の方にはメールで連絡させていただきますので，必ず，申込みの際には氏名，メールアドレス，携帯電話番号を野間までお知らせ下さい。通常は担当学生・大学院生のメールアドレスへの申し込みとなっていますが，今回の申込みは上のような事情に鑑みて，教員の野間の電子メールアドレス（noma@kansai-u.ac.jp）までお願いします。また直前のキャンセルなども野間の携帯（090-2381-9752）までお知らせ下さい。

テーマ：富田林寺内町と羽曳野丘陵・古市古墳群
日　程：2020 年 10 月 4 日（日）9：45 ～ 18：00 頃　　2 回生ほか 26 名が案内
集　合：近鉄長野線富田林駅改札口　9 時 45 分（大阪阿部野橋 09：20 →古市 09：36　9：38 →富田林 9：44　南大阪線急行（吉野行） 450 円，古市で乗り換え）＊直通の場合は 大阪阿部野橋 9：14 発の河内長野行き準急に乗車
コース：近鉄富田林駅（9：45）～富田林寺内町～石川段丘遠望（昼食・一次解散）～富田林西口駅（12：42）～　古市（12：53　13：01）～駒ヶ谷駅（13：03）～河内ワイン館～ぶどう栽培～駒ヶ谷駅（15：09）～古市駅（15：11）～古市大溝～応神天皇陵～道明寺～道明寺駅（17：20）～柏原西口駅（17：22）～大和川堤防～ JR 柏原駅（18 時頃，解散）＊近鉄大阪線堅下駅へも至近
費　用：域内電車運賃 580 円＋昼食代（富田林寺内町にある旧町家利用の飲食店などを利用 1000 円程度）＋自宅からの富田林，柏原駅等までの運賃
担　当：野間晴雄，土屋純
教員責任者：野間晴雄（携帯電話 090-2381-9752）土屋　純（携帯電話 090-5864-5738）

2．第２回千里地理学会

日　時：2020 年 12 月 12 日（土）　13 時～ 17 時 30 分
場　所：関西大学千里キャンパス　第 1 学舎 1 号館（A 棟）　A301
※新型コロナ対応のためより広い教室に変更の可能性があります。変更の際には教室 HP で告知します。

卒論講話　　13：00 ～ 14：00　土屋　純
千里地理学会　　14：30 ～ 17：00
1）黒木貴一（関西大学新任）：神社に着目した自然災害伝承時空間の確認
2）東出修一（元・日本旅行）：旅行業界の懸河に棹さして
－アウトバウンド，インバウンド，そしてコロナ－
3）于　亜（関西大学・大手前大学非常勤講師）：出会いに支えられた研究生活
地理学研究会総会　17：00 ～ 17：30　松井幸一
懇親会　昨今の新型コロナウイルス感染症の流行状況を踏まえ「なし」と致します。

神戸市出身です。旅行や観光に興味があってこの専修を選びました。よろしくお願いします！

谷口　歩
はじめまして。私は高校で地理を学んで魅力を感じたため大学でも地理を学びたく，地理学専修を選択しました。観光に興味があります。よろしくお願いします。

田村莉菜
私は地域の特性や測量に興味があり，専修を希望しました。また，体を動かすことが大好きなのでフィールドワークや野外実習をとても楽しみにしています。よろしくお願いします。

仲原太亮
こんにちは。私は小学生の時から地図帳を見る機会が多かったので，地理に興味をもちました。旅が好きなので，観光について研究したいと考えています。よろしくお願いします。

西村莉乃
初めまして。旅行をするのが好きで，地域の歴史や文化，また観光について興味があったのでこの専修を履修しました。よろしくお願いします。

福田彩伽
初めまして，私は昨年地理学専修の学びの扉の授業を受けて，観光や食について学びたいと思い地理学専修を希望しました。これからよろしくお願いします。

藤井　純
お初にお目にかかります。趣味のダム巡りより地形に興味が涌き，地理学専修を希望いたしました。知見を得られるように精進いたします。よろしくお願い申し上げます。

松川立樹
初めまして，滋賀県出身です。小さいうちから色々な所へ旅行へ行っており，その中で旅行や観光に興味を持ったので，地理学専修を選びました。これからよろしくお願いします。

村上大成
私は日本の自治体を調べることが好きなので，この専修を選びました。市町村合併の歴史や交通，観光などに興味があります。よろしくお願いします。

卒業論文及び修士博士論文一覧（2020 年 3 月・9 月卒業・修了）

【卒業論文　2020 年 3 月卒業】

安部　真依　　東京メトロによる東京の街の変遷
石田　大貴　　明日香村における体験型ツーリズム
大浦　　拓　　北摂の最後の大規模郊外開発・彩都の理想と現実
北沢　友章　　神戸市の小学校校歌からみる地域イメージ
桐山　哲久　　清酒生産の変遷と今後の展望　―広島県賀茂・安芸地区を事例に―
黒木　玲衣　　大阪府下における近郊農業の変質　―都市農業の新しい動きをふまえて―
外木場浩太朗　大阪市域の土地利用　～海抜ゼロメートル地帯とその周辺～
辻本　真由　　Ｊリーグ観戦によるホームスタジアムの交通利便性と立地特性
辻本　　優　　平成 30 年 7 月豪雨による岡山県の被害に関する研究　―新見市と倉敷市真備町を事例に―
長沼　修平　　市町村合併後の地名の変化　～兵庫県丹波市・丹波篠山市を例に～
丹尾早由里　　京町家活用と保全の現状
花井　高志　　大阪市の縁辺非戦災地区の形成と現状　―中津と中崎町を比較して―
藤﨑　　茜　　景観計画下での事業所展開及び屋外広告物等の実態から見る街並み景観の保全・再構築　―京都市を事例に―
藤田　泰資　　秋葉原のオタク・萌え文化の地方への拡大　―四国地方を中心に―
町田　路朗　　信州温泉観光地の形成と変容　―戸倉上山田の歓楽温泉街を事例に―
松尾　優介　　18 世紀後半の大坂の名所観
松原　太陽　　大阪府八尾市の食事提供や学習支援による「子どもの居場所づくり」
三好　拓也　　灘五郷の酒蔵公開と観光
村上綾太郎　　奈良町の成立と変容　―東向北町の分析を中心に―
湯川　悠介　　ブラックバスの経済効果

【卒業論文　2020 年 9 月卒業】

田中　竜人　　近畿地方における空き家問題の現状と対策に関する地理学的研究
橋　　一輝　　コインパーキングの立地と料金設定の関係性　―大阪メトロ朝潮橋駅周辺と南海岸和田駅周辺を事例に―

【修士論文　2020 年 3 月修了】

桑名　友太　　奈良盆地に分布する環濠集落の濠の残存状況と内部構造の改変
中井　香月　　黒潮に洗われる室戸半島から房総半島にかけての海岸ビーチの造礁サンゴ礫帯状分布
松川昭太朗　　海水浴文化の形成と鉄道利用　―浜寺と湘南海岸を例に―
安田　えり　　ムラの景観と境界から見る村落空間　―滋賀県和邇川流域を事例に―

『千里千里成長記 3』の一部原稿落丁について

昨年度，50 周年記念事業の一環として刊行いたしました『千里千里成長記 3』の一部原稿について落丁がありました。原稿自体は事務局へ届いていたものの，編集作業の過程で見落としたのが原因です。落丁してしまった執筆者の方には深くお詫び申し上げるとともに，今後このような事が起きないよう事務局内の役割分担の再確認と相互連絡をより徹底してまいります。落丁分の原稿についてはあらためて印刷をおこない，『千里千里成長記 3』の受領者の皆様には郵送にて送付させていただきました。

村上千紘
初めまして，転勤族なのでいろんなところに住むうちに地理に興味がわきました。大学生の間に 47 都道府県制覇しようと思っています。一番興味のある分野は気象・気候です。よろしくお願いします。

村田秀人
初めまして。地理学専修は旅行や観光が好きなので選びました。運動することやグループで活動することが好きなのでフィールドワークも楽しみにしています。よろしくお願いします。

米元佳那
はじめまして。私は高校生の時に地理を履修していたので地理学専修を希望しました。これから受験勉強とは違う地理を学ぶことで魅力に気付いていけたらいいなと思っています。

米本千夏
初めまして，大阪府寝屋川市に住んでいます。私は旅行や観光が好きなので地理学専修を選びました。これから地理学を通して色々なことを学んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。

佐藤綜一郎
(3 回生編入)
こんにちは。私は知らない街を歩くことが好きで，それがきっかけで地理学に興味を持ち，この専修を選びました。地理学にもたくさんの分野があるので広く深く学んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。

槇孝太郎
(3 回生編入)
初めまして。滋賀県の片田舎から出てきました槇孝太郎と申します。今年で 22 歳になりますが，歳を重ねる毎に勉強の楽しさというのを身に染みて感じております。勉強に終わりはないため精進していきたいと思います。

山岸諒大
(3 回生編入)
新潟県出身です。旅行などから地理学に興味を持つようになり地理学専修を志望しました。これから地域の詳しい文化などを学べたらと考えています。よろしくお願いします。

劉　天星
(院前期課程)
中国重慶の出身です。中国と日本における都市近郊地域変容過

教室だより

■3月末に70歳（特別契約教授3年目）で退職された木庭元晴教授にかわって，福岡教育大学から黒木貴一教授が4月1日に着任されました。宮崎県の出身で，東北大学理学部・理学研究科で地理学を学び，後に学位を取得後，福岡教育大学で20年間在職されました。東北大学理学部卒業後に約10年間国土地理院に在職された経験があります。専門は自然地理学で，地形学，防災学，地図学に関する研究を展開されています。今年度は，地理情報システムb，地理学・地域環境学実習a，地理学・地域環境学調査研究法b，知へのパスポート，学びの扉，卒業演習などの科目担当です。特に，地理学・地域環境学実習aでは土屋教授といっしょに滋賀県湖東地区での現地指導を10月に実施予定です。

■令和2（2020）年度の地理学・地域環境学専修に分属された2回生は25名でした。さらに，3年次の転入学が2名加わりました。大学院博士課程前期課程には3名が入学，2名は（中国・福建省出身，受入　土屋），（中国・四川省出身，受入　野間），もう1名（モンゴル出身，受入　土屋）です。2回生は25名，3回生は20名，4回生は28名，博士課程前期課程8名，博士課程後期課程1名の計82名となります。2020年度秋学期からはさらに中国からの大学院生2名が加わる予定です。

■2020年度は新たに非常勤講師としてご出講いただいたのは，浅田晴久先生（奈良女子大学），波江彰彦先生（関西学院大学），立見淳哉先生（大阪市立大学），二村太郎先生（同志社大学），新見治先生（香川大学名誉教授），岡橋秀典先生（奈良大学），栗本史雄先生（元・産業技術総合研究所），髙田晋史先生（神戸大学）です。

■恒例の「地理学・地域環境学実習」のバスによる1泊巡検は，新型コロナウイルスの問題により延期となり，8月9日に3密を避けるため3回生，M1のみの参加とし，日帰りで実施しました。桜井市・宇陀市・曽爾村・大和高原方面にバス1台で出かけました。

■大学院合同演習は，昨年と同様に関西大学梅田キャンパスで7月18日（土），13時～18時に実施しました。ガルサンドルジ・ブルドルジ，朱 子同，鄭 梓鈺，劉 天星，趙 欣鑫，徐 雨辰，李 嘉文，海 思琪，齋藤 鮎子の9名の発表がありました。中国に帰国中の院生2名はZoomで参加しました。その後の懇親会ですが新型コロナウイルスの問題により中止となりました。

■2020年3月～9月までの教員の海外出張は以下の通りです。

野間晴雄：ハイチ，ドミニカ共和国（3月5日～15日）サトウキビ栽培史の調査（科研費）

千里地理および同窓会 令和元年度会計報告

（収入）	（円）
会費（8名）	30,000
寄付金	59,640
計	89,640

（支出）	（円）
千里地理第81号印刷代	37,800
郵便発送代	33,534
切手代	256
雑費	3,948
計	75,538

（収支残高）	（円）
前年度繰越金	408,320
収入－支出	14,102
計	422,422

〈同窓会事務局ニュース〉

・2020年12月12日（土）に2020年度千里地理学会（旧研究会）と同窓会総会を開催いたします。なお本年度はコロナウイルスの影響を踏まえて，懇親会は実施いたしません。

・同窓会通信の執筆を募集しております。1ページ1600字程度，半ページ800字程度です。執筆いただける方は教室メールアドレス［kandaichiri@gmail.com］までご連絡ください。また，会費の納入状況などのお問い合わせも上記メールアドレスにお願いいたします。

程の研究に興味を持って，これから大学院で研究を進めたいと思います。よろしくお願いします。

鄭　梓鈺
（院前期課程）
初めまして。鄭梓鈺です。私は中国の福建省からまいりました。大学の時，海外でのバックパッカーがきっかけで色々な国の地理や文化に興味を持つようになりました。そのため地理学を選びました。宜しくお願い致します。

ガルサンドルジ・ブルブドルジ
（院前期課程）
モンゴル・国立モンゴル教育大学で自然地理学を学んだ後，日本に語学研究で留学しました。2020年4月から土屋ゼミに所属しています。ウランバートル市の環境問題について研究したいと考えています。

朱　子同
（院前期課程）
私の出身地は中国福建省福州市です。京阪神都市圏に着眼して都市地理学的に研究したいと思います。まだまだ未熟者ですが様々な授業や研究活動を楽しみにしています。これからもどうぞよろしくお願いします。

徐　雨辰
（院前期課程）
中国四川省出身です。中国の大学で世界史を学びました。歴史地理学とアナール学派に興味があります。私は近世近代日本の甘蔗栽培及び砂糖生産についてのことを研究したい。趣味はサッカーと旅行です。どうぞよろしくお願い致します。

2020年度（秋）卒業生からのひと言

田中竜人
巡検や実習調査など，たくさんの貴重な経験をさせていただきました。お世話になった先生方や院生の方々にはとても感謝しています。ありがとうございました。

橋　一輝
半年遅れてしまいましたが何とか卒業することができました。辛いことも沢山ありましたが，それなりに楽しい学生生活を送れたと思います。ありがとうございました。

随想 遠隔授業試行錯誤

田中　清隆

2016年度から関西大学で「地理歴史科教育法（一）」の授業を担当させていただいています非常勤講師の田中です。

今年度は，グループ毎に90分で千里山キャンパス，及び近隣の地域調査を実施し，高校生の『関大千里山キャンパスで学ぶ地理』の授業の指導案を作る授業を行い，模擬授業に加えて授業の柱にすべく，大阪層群や，千里山キャンパス内外を調べていました。

ところが，新型コロナウイルス感染症拡大の懸念により，4月当初の2回の休講後，春学期は原則遠隔授業になりました。そこで，「千里山キャンパスを歩く授業」を割愛し，学習指導案や地理の授業方法，著作権，授業例などの講義に続き，各自作成した高校地理の学習指導案で模擬授業を行ない，その評価を経て授業改善につながるようにシラバスを改訂し，遠隔授業に臨みました。

コロナの終息の目処が立たず，たとえ落ち着いても，何日間も対面授業を行うことは難しく，学生の模擬授業も遠隔で行うことにし，「遠隔授業の方法を学ぶ」という授業の目標を追加しました。

初回は，関大LMSに授業レジメを置き，このレジメに関する問題を，小テストで解く授業を行ないました。

2回目からは関西大学ITセンターの支援で取得したライセンスでZoomを使ったリアルタイム遠隔授業を行いました。コロナ禍で，仕事がテレワークになった，1年に1，2度会うぐらいの面倒くさがりの息子達も意外とZoomの練習相手になってくれました。

学習指導案は5月の連休後に完成し，5月下旬からは，Zoomによる学生全員の模擬授業を開始しました。

2クラスの授業を担当していますが，木3限は約40名，木5限は10名弱の学生で，可能な模擬授業の時間は大きく異なりました。多いクラスは模擬授業の時間は8分ほどしか確保できません。また，コロナ禍で大学での教科書の販売が無くなり，ネット注文での教科書の入手が遅れました。そこで，模擬授業日を原則希望日としたため，偏りができ，多い日の模擬授業は，Zoomの諸機能を一部重複して使って時間を詰めても90分の授業でぎりぎりとなりました。

多くの学生はZoomの画面共有機能を使ってパワーポイントの画面を表示し，教科書を使って指名を交えながら模擬授業を進めていました。

授業後，投票機能を利用して，その結果を全員で共有し，チャットで感想，質問を送信し，私が口頭で授業評価を述べる形式で進めました。木3限では，授業者の授業後の感想や授業改善に向けての抱負などを述べる時間が取れない日もありました。

学生達の授業者への各項目の評価は5段階の上から4，5の評価が中心で，「もっと聞いていたい」というコメントも多く，私の評価もほぼ同様の高評価でした。理解不足の説明も，後の自己評価では気づいていました。

これまでの対面授業での模擬授業より，今年度の遠隔授業の方が，より伝わる授業でした。Zoomの共有画面の資料が見やすく，音声も明瞭で授業者との距離が近いと感じていました。毎回の授業後には，残っている希望者による雑談タイムを設けました。この中での相談で3人のチームによる最終日の模擬授業が実現しました。また，授業で必ず教科書を使ったことは共通の学習環境を作ることに役だったと思います。

途中で，資料提示で進める授業に加えて，生徒達に作業させることが必要であることに気づき，作業用の「授業プリント集」を全員で作成しましたが遠隔授業でこのプリントをどう活用するかは今後の課題となりました。

動画共有で音が出ない時に，改善策を指摘してくれた学生もいました。Zoomのアカウントをとり，投票機能，ブレークアウトセッションの機能を主体的に使うためにホストの権限を私から移管して使う学生や，ファイル送信機能で授業レジメを配布する学生もいました。帰省中で機材が無く，自分の模擬授業をスマホで行う大胆な学生もいました。

授業中，私のパソコンが想定外のダウン。あわてて，パソコンを再起動して復帰した時，Zoomによって自動的にホストに割り当てられた学生を中心に模擬授業は続いていました。以降，学生に共同ホストを依頼し，私のダウンも想定内になりました。

本日は授業最終日で，模擬授業やグループでの授業研究の発表の後，関大LMS上でパスワードで入るテストを実施しました。今期の授業は関大LMSの優れた機能，Zoomの手軽な先進の機能に助けられました。

これらの機能は「千里山キャンパスを歩く授業」でも使えそうです。コロナ終息後の対面授業では今期の遠隔授業の試行錯誤の経験を生かしたい思っています。

（たなか　きよたか：本学非常勤講師）

千里地理通信　第83号
2020年9月1日　発行　（350部）
関西大学地理学研究会
〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
関西大学文学部地理学・地域環境学教室内
編集担当：黒木貴一
tel：06-6368-1121（内線4890：大学院生室）
e-mail：kandaichiri@gmail.com
url：http：//www2.kansai-u.ac.jp/kugeoenv/
郵便振替：大阪00970-4-81149